



本名は彦作。字は文甫、号は嘯邨。小十硯軒、壺心軒、石雲山房の称がある。  
市川大門村の青洲文庫に通い写印に励み研鑽をつむ。  
微山四世濱村蔵六の門に学ぶ。

慶応 四年

明治 十四年

三月五日山梨県中巨摩郡大井村(旧甲西町)下宮地に、父清右衛門、母いねの長男として生まれる。  
春米つきよね小学校教員となる。

明治 十六年

この頃より篆刻に志し模刻により独習。  
校長代理を務める。

明治 二十年

四世濱村蔵六に師事。日本美術協会会員となる。

明治 二十七年

瓦当模刻印譜「三輔餘塵」上下二巻を甲府より出版。

明治 二十八年

小松宮彰仁親王の祐筆となる。

明治 三十二年

上京し、麹町三宅坂に卜居。

明治 三十三年

第三回内国勸業博において篆刻が金賞受賞、以後入選、入賞を重ねる。

明治 三十八年

自刻「石雲印譜」出版。

明治 四十三年

「蔵六金印」編輯出版。

昭和 四年

「星石遺墨」編輯出版。

昭和 五年

自刻「壺心印蛻」出版。

昭和 九年

この頃東京印判評議会を興し主席審査員となる。  
隸書「飲中八仙歌」を昭和法帖の一冊として雄山閣より出版。

昭和 十九年

山梨県増穂町に疎開。

昭和 二十一年

八月十九日同地にて没す。行年七十九。

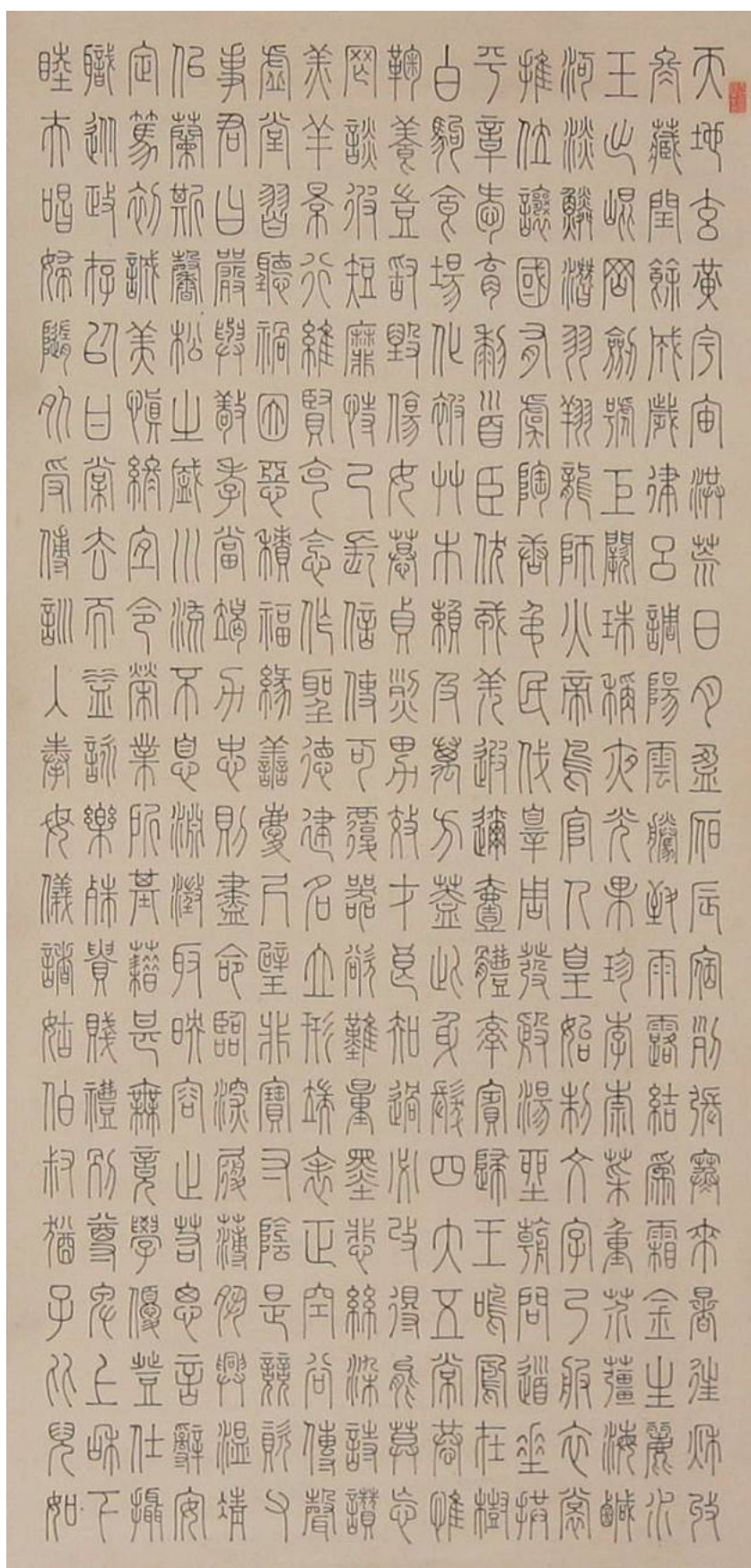


定親王寶印題函（乾隆帝第一子）



小篆千字文

明治二十八年(一八九五)



132×63.5